

父と母を敬え

出エジプト記 20 章 12 節

はじめに

今日は、母の日です。母の日は、アメリカ人のアンナ・ジャービスというひとりの女性から始まったと言われます。アンナの母親は敬虔なクリスチャンで、教会学校で献身的に奉仕して天に召されました。アンナの母親を慕った人々は、1908年に記念会を開きました。その記念会でアンナは、母親を偲んでカーネーションを捧げ、お互いに毎年一度は母親への感謝を表すことを提案しました。この話に感動したクリスチャンの百貨店王のジョン・ワナメーカーが、五月の第二日曜日に自分の店でカーネーションを飾るようになりました。その後、この話はアメリカ全土に広がり、1914年には大統領が五月の第二日曜日を「母の日」として制定し、国民の祝日となりました。このアメリカの「母の日」の影響で、日本でも五月の第二日曜日が一般的に「母の日」とされています。

日本では、クリスチャンでなくてもこの「母の日」を覚えて、母親にプレゼントをすることが広く受け入れられています。「親孝行をする」「親に感謝を表す」ということは、世間一般で良いこととして受け止められています。

しかし私たちは今日、聖書から親との関わり方を学びたいと思います。私たちは親とどのように関わるべきなのか、神様は親とどのように関わることを私たちに求めておられるのかを、十戒の第五戒「あなたの父と母を敬え」という言葉から学びたいと思います。

1. 父と母とは？

そもそも「父と母」とは、何でしょうか？「親」には、どのような役割があるのでしょうか？神様は、親にどのような役割を求めているのでしょうか？

親は、神様に代わって、私たちに命を与え、私たちが養い育てる存在です。私たちに命を与え、私たちが養い育ててくださる方は、神様です。しかし神様は、それをご自身で直接なさるのではなく、親の手を通してそれをなされるのです。親は、神様の代理人です。神様は、親の手を通して私たちが養い育てられるのです。

すべての命は神様のものです。子どもたちも神様のものです。すべての親は、神様の代理人であることをわきまえ、恐れを持たなければなりません。決して自分の子どもを所有物のように扱ってはなりません。子どもは親の願うように育てるのでもありません。子どもは神様の願うように育てるものです。神様の御心に従って育てるものです。

ですからパウロは、親に向かって、特に父親に向かってこのように言います。「**父たちよ。自分の子どもたちを怒らせてはいけません。むしろ、主の教育と訓戒によって育てなさい**」(エペソ

6:4)。聖書は、子どもを養育する最終的な責任は、母親よりもむしろ父親にあると見ています。父親は、主の教育と訓戒によって子どもたちを育てなければなりません。

では、主の教育と訓戒とは、具体的にどのようなことでしょうか？神様はイスラエルの民にこのように言われました。「**あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。私が今日あなたに命じるこれらのことばを心にとどめなさい。これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家で座しているときも道を歩くときも、寝るときも起きるときも、これを彼らに語りなさい。これをしるしとして自分の手に結び付け、記章として額の上に置きなさい。これをあなたの家の戸口の柱と門に書き記しなさい**」(申命記 6:5-9)。親は、子どもに神様を愛することを教えなければなりません。

「あなたの父と母を敬え」という十戒の第五戒は、神様を愛することを教える第一戒から第四戒のすぐ後に続きます。なぜ神様を愛することを教えたすぐ後に、親を敬うことが教えられるのでしょうか？それは、親こそ、私たちに神様を愛することを教えてくれる存在だからです。私たちの人生にとって最も大切な関係は、神様との関係です。その神様との関係を教えてくれた親だからこそ、私たちはまず第一に敬わなければならないのです。

親の役割は、子どもたちの命を守り、養育することです。しかし何よりも大切なことは、神様を愛することを教えることです。よい大学に進学させることでも、よい会社に就職させることでも、よい結婚相手を見つけさせることでもありません。神様を愛することを教えることです。神様を愛することを教えれば、子どもたちは神様の召される道に従って生きていきます。そしてどんな困難の中でも乗り越える力を得ます。

神様を愛することとは、具体的にどのようなことでしょうか？十戒の第一戒から第四戒は、神様を礼拝することを教えています。神様だけを正しく礼拝すること、安息日を守ることを教えています。子どもたちは、礼拝の中で神様を愛することを学んでいきます。親は、子どもたちと共に礼拝を守ることを通して、神様を愛することを教えていくのです。

皆さんの中には、すでに自分の親を亡くし天に送った方もおられるでしょう。では、そのような方は、この「あなたの父と母を敬え」という戒めから解放されているのでしょうか？

そうではありません。イエス様を信じる私たちには、たとえ実の父親を亡くしたとしても、天の父なる神様がいます。私たちは、地上の生涯の最後まで父なる神様を敬っていく務めがあります。

また宗教改革者のカルヴァンは、教会を「母」と呼びました。私たちは、教会の宣教の働きを通して、神様の子どもとして新しく生まれ、教会の教育と交わりの中でクリスチャンとして成長していくからです。私たちの地上の生涯には、母なる教会を敬うという務めも残されているのではないのでしょうか。

私たちはたとえ自分の両親を亡くしても、父なる神様を敬い、母なる教会を敬うことを通して、「あなたの父と母を敬え」という戒めを全うしていきたいと思うのです。

2. 敬うとは？

では、「父と母を敬う」という時の「敬う」ということについて次に考えていきたいと思
います。「敬う」という言葉は、「重い」「重んじる」「重く扱う」という意味です。両親を重
んじ、丁重に扱うというのが、第五戒です。

しかし「敬う」ということを、もう少し具体的に考えるために、「ハイデルベルク信仰問
答」を参考にしたいと思います。ハイデルベルク信仰問答には、「第五戒で、神は何を望ん
でおられますか」という問いがあり、次のように答えています。「**わたしがわたしの父や母、ま
たすべてわたしの上に立てられた人々に、あらゆる敬意と愛と誠実とを示し、すべてのよい教えや懲
らしめには、ふさわしい従順をもって服従し、彼らの欠けをさえ忍耐すべきである、ということです。
なぜなら、神は彼らの手を通して、わたしたちを治めようとなさるからです**」(問 104)。

「敬う」とは、第一に「敬意と愛と誠実を示すこと」であり、第二に「教えや懲らしめに
従うこと」であり、第三に「彼らの欠けを忍耐すること」であると言います。私たちは、「あ
なたの父と母を敬え」という戒めで、親に敬意と愛と誠実を示し、教えや懲らしめによく従
い、親の欠けを忍耐することが求められているのです。

現代社会の中には、親との関係に傷がある人も少なくありません。支配的な親に育てられ
たり、無関心な親に育てられたり、虐待などの暴力を受けていたり、両親が離婚をしてい
たり。そのような中で親を赦せないという人も少なくありません。そのような人にとっては、
「あなたの父と母を敬え」という戒めは、心が重くなってしまうもの、向き合いたくない、
避けて通りたいものかもしれません。

しかし、私たちはこの第五戒の戒めの十戒での位置を考えなければなりません。十戒の第
一戒から第四戒は、神様との関係を教えるものです。そして第五戒から第十戒は、人間との
関係を教えるものです。「あなたの父と母を敬え」という戒めは、神様との関係を教えられ
た者が取り組む戒めです。私たちは、神様との関係をしっかり築く時に、本当の意味で親を
愛し、従い、忍耐することができるようになるのかもしれませんが、それは、私たちがイエス
様を信じ、父なる神様を自分の父とし、母なる教会を自分の母とし、神様と教会の交わりに
生きようになる時、親を愛し、親に従い、親を忍耐することができるように少しずつ変え
られていくのかもしれませんが、神様を父とし、教会を母として、主にある兄弟姉妹と共に神
の家族の中で生きようになる時、自分が育った家族や両親を客観的に、また冷静に見るこ
とができるようになるのかもしれませんが、そのような中で、親の見方が少しずつ変えられて
いくのかもしれませんが。

私たちは、どんな親でも愛し、従い、忍耐することが求められています。しかし私たちは
決して、盲目的に親を愛し、従い、忍耐するわけではありません。私たちは、十戒の第一戒
から第四戒を教えられた後に、父と母を敬うのです。もし自分の親が十戒の第一戒から第四
戒の戒めを私たちに守らせないような要求をする場合は、抵抗しなければなりません。たと
えば、神様以外の偶像を拝ませるとか、安息日の礼拝を守らせてくれないとか、そういう場
合には、安易に従ってはいけません。「**人に従うより、神に従うべきです**」(使徒 5:29)とあるか
らです。イエス様も言われました。「**わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者で**

はありません」(マタイ 10:37)。私たちが第一に愛すべきであり、従うべきなのは、神様なのです。

おわりに

親は、私たちが生まれてから一番最初に築く人間関係です。人生で最初の人間関係は、親との関係です。十戒は神様との関係を教えた後に人間との関係を教えていきますが、人間との関係でまず取り組むべき関係は、親との関係であると教えます。

この「あなたの父と母を敬え」という戒めには、約束が伴います。「**あなたの神、主が与えようとしているその土地で、あなたの日々が長く続くようにするためである**」。長生きすることは、神様の祝福と見られました。親を愛し、従い、忍耐する人生は、神様の祝福に与る人生です。

この「あなたの父と母を敬え」という戒めは、幼い子どもたちや思春期の若者に向けられた戒めであるだけでなく、すでに親を離れて新しい家庭を持った中年の人たちにも向けられた戒めでもあります。すでに親は仕事を引退し、体も弱ってきて、人の世話にならなければならなくなっている、そういう親を敬えという戒めでもあります。

超高齢社会の中で、この戒めは大きな意味を持ってきます。社会全体のひとりひとりが高齢の親を大切に扱っていき、高齢者の方々が大切に扱われる社会が創られていく時、私たちがやがて高齢になる時、私たちも大切に扱われ、私たちの日々も長くなるのかもしれませんが。この約束は、そういう現実的な約束という面もあるのかもしれませんが。

今の私たちにとっての「父と母」は誰でしょうか？今も一生懸命仕事と家事をし、私たちが養い育ててくれている「父と母」でしょうか？それとも、すでに高齢になって、体の自由も効かなくなっている「父と母」でしょうか？それとも父なる神様であり、母なる教会でしょうか？私たちはイエス様を信じて、父なる神様を父とし、母なる教会の交わりの中で生かされている者たちです。それぞれの「父と母」を敬いながら、神様の栄光を現わしていきたいと思います。

天におられる私たちの父なる神様。

私たちは、イエス様の十字架の贖いによって、神様の子どもとされました。そして、あなたを父と呼べる幸いに与りました。また、教会という母を私たちに与えてくださり、兄弟姉妹と呼べるクリスチャンの交わりも与えられました。私たちは、生まれながらの家族と同時に、主にある家族の中で生かされています。私たちは、神様を父として生きていく時、生まれながらの家族を愛することを求められます。家族の関係が複雑になり、家族の中でも様々な傷つけ合う現代社会です。どうか、それでも主にあって癒し、神様の戒めに生きる力が与えられますように。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。